

♡ことばの力 ♡からだの力 ♡こころの力 園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和5年5月1日



「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園



生きとし生けるもの - 「育つ」を目の当たりにして-

風薫る5月、若葉の美しい季節となりました。

幼稚園の子どもたちは、新生活に少しずつ見通しを持ちはじめ、落ち着いて過ごす姿も見られるようになりました。

不安で泣いていた年少の子どもたちは、年長の子どもたちが朝や帰りの会には降りてきてくれて、一緒に遊んだり手伝ってもらったりする中で、ようやく安心して遊ぶ姿も見られるようになりました。異年齢による活動は互いに学ぶことが多いのですが、守りたい存在を見出した時、人はより強く優しくなれると言われるゆえんです。年長児は一気に頼もしい姿をみせてくれています。

土曜日の園庭開放、大盛況！

4月15日(土)の園庭開放は、あいにくの風雨でしたが、16組もの親子が参加して下さり、遊戯室では、自由遊びやふれあい遊び、動物体操、大型絵本の読み聞かせにとたっぴり遊び込みました。

土曜日の開催なのでお父さんの参加も多く、お父さんご自身が「楽しかった！」とお子さんにお話されている姿が大変印象的でした。中には、日頃は全く育児に参加しない？(お母さんのお話)お父さんも初めて参加されたようで、その横でお母さんはにこにこでした。お父さん、また懲りずに来てくださいね。



— 誉められたAちゃん —

さて、この3月に卒園したばかりのAちゃんですが、弟と一緒に園庭開放に参加してくれました。

お母さんからは「小学校には、一人で登下校するって張り切って行ってくれています！」「小学校の先生から、『きちんと敬語を使ってお話ができるのはAちゃんだけですよ』と誉めてもらいました。」との嬉しいお知らせもありました。



新しい世界にご機嫌さんで通えること自体おおいに誉めてあげたいことです。その上、園生活の中で自然と身に付けた「ことばの力」を小学校でも発揮し、そのことに先生が気付いて誉めてくださったのですから、Aちゃんにとって大きな自信となったことでしょう。お母さんと手を取り合って喜びました！！城南学園幼稚園の卒園児の皆さん！お元気ですか？7月の同窓会で会えることを楽しみにしています。

親愛の情を込めて「挨拶」が響く幼稚園に！

よく知らない人との間でも、簡単な挨拶のことばを交わすだけで、なんとなく心が安らぐのは、なぜでしょうか。

「挨拶」という漢字には、「押す、互いに近づく」といった意味があります。「挨拶」には「迫る」という意味があります。つまり、出会った相手に心を開いて迫っていく挨拶は、心豊かな人間関係を築く上での「最初の一歩」といえる行為なのです。園長先生！おはようございます！と目ざとく見つけて挨拶してくれる子どもからは、存在に気づいてもらっている、受けとめてもらっているという安心感をもらっています。



読書週間 絵本・児童書の出版社として

数多くのロングセラーを生み出した福音館書店ですが、創業時から編集長を務めた福音館書店相談役 松居直さんをご紹介します。

『絵本はへその緒』から

絵本を読み終えても「もう一回読んで」と言う。読んであげても心はお留守になっている。なのに読み終えるとまた「もっと」と言う。母親の気持ちが自分にだけ向けられているというシチュエーションがきっと心地いいのだろう。子どもは「作者の名前は覚えていなくても、誰に読んでももらったかは、覚えているもの」
＜折々のことば 2022.11.17＞より

さて、私ごとですが、早朝から最後まで保育園に預け、小学校教諭を務めていた頃を思い出します。勤務を終えて保育園に向かう中、やっと我が子に会えるという喜びに美しい夕日が彩ってくれた光景を今でも鮮明に覚えています。親子で「今日もおつかれさま」という解放感いっぱい瞬間でした。それもつかの間、帰宅すると、洗濯機を回し、風呂を沸かし、夕食の支度をと慌ただしい一時間が過ぎます。今から思うと、本当に無我夢中の時代でした。そして、最後は、布団の中での「本読みタイム」です。やはり、この時間のことを二人の娘は今でもよく覚えていると言います。「もう一回」の連発でしたが、今思うと、早く寝かせて仕事をしたいという気持ちが見破られていたようです。とうとう諦めて、まずは一緒に寝て、早朝に仕事をする作戦に変更しました。

さて、子育て真っ最中の保護者の皆さん、本当に「毎日おつかれさま」です。いつも送迎される姿に、心から応援しています。保護者の皆さんの元気が一番、でもしんどい時もあります。実は「理想の子育て」はあるようでないように思います。それぞれのご家庭で我が子とともに生活するのですから。大切にしたいことは「子どもに聴き」ながら一緒に生活を創りあげていくということではないでしょうか。

4月から「こども基本法」が施行されましたが、その意図は、「こどもの権利条約」を受けて、日本の国として初めて「こども」のための法規を制定したことにあります。こどもは、保護される、養護される存在であるだけでなく、「どう感じ、どう思っているのか」という「こどもの声を聴く」ことの重要性が謳われています。

幼児期の子どもたちは、家庭や園の生活を通して、様々なことを学び、成長・発達を遂げていきます。幼児期にふさわしい生活とは何でしょう。

園では、「振り返り」活動を設けて、自分の思いを言葉にする力を3年間かけて育てています。5歳児になると鋭い発言が聞かれ出します。「この玄関ホールの天井が落ちてきたらどうする！？」先日の避難訓練後での発言です。自分ごととして深く考えています。保育者も「子どもに聴く」を意識して、園生活を創っていくことをめざしています。